

■定員充足率が5割以下の  
法科大学院

	定員 (人)	今春入学 者(人)	充足率 (%)
姫路独協	30	5	16.7
京都産業	60	19	31.7
東北学院	50	18	36
近畿	60	23	38.3
神奈川	50	20	40
東海	50	21	42
久留米	40	17	42.5
信州	40	17	42.5
愛知学院	35	16	45.7
鹿児島	30	14	46.7
大宮法科	100	47	47
金沢	40	19	47.5
新潟	60	29	48.3
香川	30	15	50
神戸学院	60	30	50

定員に占める入学者の割合が低い順に並べた

■競争倍率の下位10校

	受験者 数(人)	合格者 数(人)	競争 倍率
西南学院	131	114	1.15
広島修道	46	40	1.15
大阪学院	89	75	1.19
愛知学院	36	30	1.2
東海	55	45	1.22
大東文化	94	76	1.24
神戸学院	69	53	1.3
近畿	78	58	1.34
駿河台	136	101	1.35
久留米	60	44	1.36

受験者数を合格者数で割った競争倍率が低い順に並べた

法科大学院  
%競争率

# 42校競争率1倍台

## 定員50%割れ15校

法科大学院計74校のうち、入試の競争倍率が2倍未満の大学が42校あったことが5日、文部科学省のまとめで分かった。法科大学院をめぐっては、中央教育審議会（文科相の諮問機関）の法科大学院特別委員会が、入学者の質を確保する観点から、「競争倍率2倍未満の大学院」について自主的な定員削減を求めたが、対象校は全体の6割近くに達していることとなる。

この日の特別委では、昨年度実施された入試の各校の受験者数▽合格者数▽今春の入学者数などをまとめた資料を文科省が示した。それによると、総定員5765人に対して前年度比25%減、過去最低の2万9714人が志願。4844人が入学した。

競争倍率は、千葉と首都大学東京が8倍超となったほか、筑波や上智、横浜国立が5倍台、一橋や中央などが4倍台、京都、慶応、東京などが3倍台と有力校で高倍率と

なつた。一方、地方の国立、私立大を中心に、42校が2倍未満となった。

この日、文科省が示した資料をもとに、定員に対する入学者の割合を算出すると、最も低かったのは、定員30人に対して入学者が5人にとどまった姫路独協で16・7%。50%以下は京都産業、東北学院など計15校あった。

また、各校の合格者のうち、どれくらいが入学したかという「歩留まり」をみると、東京、一橋、京都が96、98%で「合格者がほぼ全員入学」という結果だったが、34校は50%以下で、うち30%未満の大学院も3校あった。